

平成27年度 第3回 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会  
議事録

開催日時	平成28年1月18日(月) 午後1時30分開会～午後3時00分閉会
開催場所	安堵町役場 3階31会議室
委員長	野口委員
出席者	野口委員、森田委員、出井委員、和田委員、御宮知委員、中川委員、伊藤委員(以上7名)
欠席者	角野委員(1名)
議題	1 開会 2 議事 (1) 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について (2) 安堵町人口ビジョン(将来人口)の設定(案)について (3) その他 4 閉会
資料	○資料1 委員名簿 ○資料2 座席表 ○資料3 安堵町総合戦略の基本目標・具体的な施策の基本的方向(案) ○資料4 奈良県総合戦略 抜粋 ○資料5 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録 ○資料6 安堵町の将来人口の設定(案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	<p>1. 開会</p> <p>定刻の時間を過ぎたが、3名の委員がまだ来られていない。欠席の連絡も入っていない。</p> <p>○開会あいさつ</p> <p>○配布資料確認</p>
西本町長	<p>始めてもらって構わないが、連絡はついたのかついていないのか。ついているのであれば、お許しをもらってあと5分待っていただき、つくか、つかないのか確認してはどうか。</p>
事務局	<p>出井委員のみ遅参の旨連絡が入っている。角野委員は連絡がついていない。</p>
西本町長	<p>数分だけ待ってもらって、確認だけしてそこから始めてはどうか。</p>
事務局	<p>遅参の方々は今連絡をつけているので、もうしばらくお待ちいただきたい。</p> <p>角野委員は欠席というお返事である。出井委員は遅参、中川委員は連絡が取れていない状態である。</p>
事務局	<p>資料等の配布もれがなければ、出席委員のご紹介については、座席表をもって代えさせていただきたい。</p> <p>また、本会議は前回同様、安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定業務を委託しているコンサル会社を同席させていただくことをご了承いただきたい。</p> <p>本日は、安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱第6条第2項の規定により、委員の過半数以上のご出席により本会議が成立することをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、早速議事を進めたい。野口委員長に議事進行をお願いしたい。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定（案）について</p>

野口委員長	○あいさつ それでは、お手元の次第の通りに進めたい。まず、事務局から議事（１）について説明願いたい。
事務局	○資料３に基づき説明
野口委員長	<p>前回の皆さんからのご意見を踏まえて、修正した資料についてご説明いただいた。説明にもあったように、委員会で意見が出て修正したものは青字、それから奈良県の総合戦略にある内容をこちらでも実施するというものが赤字、それ以外に町として必要と考えて新たに加えたものが緑となっている。</p> <p>まず基本目標１について、何かご意見、ご質問はあるか。</p> <p>私から質問だが、県の総合戦略の内容を取り入れたとのことだが、それは県の施策みたいなものがある、町が何かするという事になっているのか。</p>
事務局	<p>県が総合戦略を策定したのが10月1日で、その中味を事務局として確認した。市町村が連携して実施していく内容とか、現在安堵町として実施している内容だが、県が強化したい、または総合戦略として取り組んでいこうと挙げているところは、安堵町としても改めて総合戦略として盛り込むべきではないかということで、加えている。</p>
野口委員長	<p>了解した。</p> <p>ご意見はあるか。</p>
出井委員	<p>２ページに「農業イノベーション」云々の記載があるが、ご存知のように安堵町の田んぼは、ここ何年間のうちに恐らく 20 町歩ぐらい少なくなる。笠目全体で約 22 町歩だが、それに匹敵するぐらいの田んぼがなくなる。その場合、農業自体の面積も少なくなる。そういう中で、農業を推進していくにはどのような対策として考えているのか。</p>
野口委員長	<p>主な取組の中には、「農地マネジメントの推進と農地の有効活用の支援」、「意欲ある担い手の育成」ということが出ている。その点について、どうか。</p>
事務局	<p>今おっしゃっていただいたのは、治水対策として農地が変わる所についてだと思う。それも含めて、「農地の有効活用」という部分を青色で示している。その代わりに、農業として強化していくべきところは、県とも連携しながら、今現在もいちじく栽培をしているが、その強化、畜産については引</p>

野口委員長	<p>き続き大和畜産ブランド化を県も奨励していこうというところなので、町でも畜産を強化するという形で、少なく思われる農地ではなく、更に活用のところで生かしていけるよう、そして残りの農地についてはブランド化して強化を進めていくという形で盛り込んでいる。</p> <p>他にあるか。</p> <p>またあれば言っていただくということで、流れとしては基本目標2に移りたい。5～7ページまでである。ご意見いかがか。</p>
森田委員	<p>私はもう少し後の部分で意見があるので、この部分はこれでいいと思う。</p>
野口委員長	<p>商工会はいかがか。基本目標1も含めて。</p>
御宮知委員	<p>内外の交流促進についてだが、前回の委員会の時に安堵町らしさを考えるべきだと副委員長から発言があった。僕自身は安堵町らしさということであれば、富本憲吉が一番ふさわしいと思う。色々調べたが、富本憲吉とイギリスの陶芸家のバーナード・リーチという人の出会いが1910年にあった。始めは通訳として出会われたらしい。1916年ちょうど100年前に、リーチが憲吉宅に訪問されている。そしてその15年後の1931年に、ロンドンでリーチと富本さんが合同展を開催されている。そして1961年に、またリーチが安堵町の富本憲吉宅に訪問されている。約50年以上の親交があった。その友情と言うか親交を、何かの形で安堵町として残せないか。それがひとつの地方創生に繋がるようなことになればいいと個人的に考えている。現に、益子町とイギリスのセントアイリスとは、2012年に友好都市関係になっている。個人的な繋がりしかなかったかもしれないが、リーチの長男やその一派の方や孫がまだいらっしゃるので、そういう方達と連絡を取り、安堵町と友好都市関係にできないか。それをすることによって、富本憲吉のグローバルな生き方と言うか、安堵町の若者がそういう交流をすることによって、色々なことができるのではないかと考える。教育に繋がっていくと思うので、是非とも富本憲吉を地方創生のひとつの材料としてもらえるように、検討して欲しいと考えている。</p>
森田委員	<p>今、商工会会長の御宮知委員から富本憲吉さんをもっと前面に打ち出して何か考えられないかというお話があった。最近では逆に、今までなら町内に富本憲吉の作品が全てあった。これが今は全く残っていないのが一番残念である。富本さんのことに触れながら、何を紹介するのかとなった時に、やはり一番手っ取り早いのは、作品を紹介することがメインになってくると思うが、今現在それが何もない。そういう部分を町が追いかけていくのかということに私は疑問を感じる。御宮知委員は、富本さんの作品が安堵町に存在し</p>

	<p>ているとお考えか。ないということをお話されているのか。もちろん、安堵町で生まれ育っておられるので、そのことに関しての前向きな取組はいいことだが、作品を前面に出すことについては、私は悲しい思いがある。町長の意見として、富本憲吉という人物を安堵町としてどのあたりで捉えていくのか、お聞かせ願いたい。</p>
御宮知委員	<p>付け加えたい。確かに作品は既に残っていないのは知っている。私が言いたいの、富本憲吉とバーナード・リーチの友情を何とか形にできないのかということである。50年以上親交があったということに対して。既に二人とも亡くなっているわけだが、実際はその出会いがあって、大正から昭和時代にわざわざ訪れている。そういう親交はなかなかないと思う。</p>
森田委員	<p>友情をどういう形で表現するのか。</p>
御宮知委員	<p>それは町長の意見を聞きたい。</p>
西本町長	<p>色々な見方があると思う。御宮知委員の見方、或いは森田委員がおっしゃったように、作家である以上作品がなければしんどいという部分もある。どちらがどうだということではないと思う。両方とも大きな要因だと思う。ただ、富本憲吉氏が安堵町で生まれて安堵町で育ち、日本全国或いは海外にも飛び立っていったというまぎれもない事実がある。つかみどころのない話になってくるが、このことは大事にしていきたいと思う。昨年1～3月頃に県立美術館で富本憲吉展があり、安堵町が共同出展をした。いつもの4～5倍の人が集まってきて、昨年の県美の催事の中で一番賑わったのは、富本憲吉展だったということを知事も非常に感心されていた。物はなくても、色々な意味で歴史を盛り立てることは、今後もやっていきたいと考えている。有名な作品は残念ながらほぼ流出したが、初期の作品はこの町に結構まだ保存されている。まだまだ地元ではこういう初期の作品が根付いているということは、これから発信していきたい。そういうことで、心と技は継承していきたいという思いでいる。答えになったかどうか分からないが。</p>
出井委員	<p>余談になるかもしれないが、富本憲吉さんは安堵町では当然誇るべき人である。何年前か前に道後温泉に行き、土産物屋に壺があったので聞くと、富本憲吉さんが道後温泉の隣の町で1～2年指導をされたということで、富本憲吉さんの形をずっと継承しているということだった。例えば美術年鑑を見ると、明治以降2番目に評価が高い。安堵町の間が考えている以上に評価が高い。富本憲吉の実家が現存しているので、それを観光に生かして、それをベースに活用していければ、作品がなくても知名度が高いのでそれを利用していただければと思う。</p>

野口委員長	<p>私も同感である。高価な作品はなくなったとしても、歴史的事実と心と技が残っているということは、町長が言われたとおりだと思う。5ページの（１）に灯心の技術について書かれているので、これと並んで富本憲吉氏が生まれて活躍された場所であるということを生かした企画を検討し、内容の充実を図っていくとしたほうがいいのかと思う。よろしいか。</p> <p>基本目標３に移りたい。８～12ページまでである。ここについてご意見はあるか。</p>
森田委員	<p>9ページ（２）の中段に「語学教育の推進」がある。教育については、第1回目の委員会で発言したが、議事録を見ても私の意図したことが反映されていない。声を大にして教育が何故大事かということを取り上げていただきたいとお願いした。安堵町の小学校、中学校の一貫教育から始めて、特に英語力をつけて、安堵町の学校へ行けば英語力がつくという特色のある教育を進めてはどうかということも、その時にお願いしたつもりである。ここには、「語学教育の推進」と当たり前のようなことだけが書かれている。特にこの語学の中でもっと強調していただいて、語学教育の推進をどういう形でしていくのか、そこの文章化も含めて一考願えれば有難い。</p>
野口委員長	<p>これについては、どなたに回答いただければいいか。</p>
楮山（教育長）	<p>以前の会議でその話が出ていたことは覚えている。今後、グローバルな視点が求められてくるので、そのあたりをこの計画の中で広げていければと考えている。</p>
野口委員長	<p>文言で強めるような表現はないか。</p>
西本町長	<p>特色ある教育、特に語学教育に力を入れていってはどうかということだが、片や学校教育はカリキュラムが指導要領で決まっているので、突出したことはなかなかできない。それならば、別メニューで子ども達対象の語学教室をすとか、そういうひとつの別立てのものを考えていかないと、公立の学校で何もかもとなると上手くいかない。別メニューで考えてはどうかという話は、常に教育長としている。そういうことにしていかないと、学校教育の1～6年生、或いは中学3年間の中では、とてもこなせるものではない。これは町長としての発言ではなく、一委員として提案したい。</p>
楮山（教育長）	<p>今現在も、大人と子どもの英会話教室をやっている。それを更に充実させていくことになる。</p>

西本町長	別メニューでやっていかないといけない。何もかも放り込むのは無理である。
森田委員	町長がおっしゃる通り、学校教育では不可能なのかどうか、教育長からはっきりとした返答をいただきたい。何故かと言うと、以前から平群町が学校教育の中でやっている。特別に英語力を強化する、社会に出た時も語学ができないと通用しないということでやっている。平群町に限らず、そういう道はないのか一度確認していただきたい。何故このことを申し上げたかと言うと、安堵町の人口をどう食い止めるかを考えた時に、やはり子どもを安堵町で育てていこうと思えるように特色ある教育があれば、人口も食い止めることができるのではないか。「語学教育の推進」という一節ではなく、もう少し強くアピールできるものを検討していただきたい。
出井委員	外国語教育というのは多分英語だと思う。直接結びつかないかもしれないが、私は大学時代にある教授と親しくしていた。その方がアメリカに何か月か行かれていた。そしたら、子どもはすぐに英語を覚えて喋るが、日本に帰国したらすぐに忘れてしまう。日本の外国語教育は読解の試験問題が多いので、実際に外国人と話せない。それが問題になっている。できれば、小学校の年代から話せる外国語の勉強をカリキュラムに入れられないとしても、安堵町の小学校に入ると英語も話せるようになるというような形のものを作っていただきたい。
野口委員長	教育に対する要望として出てきたということで、記録に留めたい。文言も「語学教育の推進」その後に「指導者の技術向上」も入っているので、こういう文言でいこうということによろしいか。
森田委員	一考願いたいとお願いしている。
野口委員長	では、ここで一考をはっきりさせたほうがいいのではないか。私の意見は、例えば「特色のある語学教育の強力な推進」とかいうことでいってはどうかと思うが。
森田委員	委員長がおっしゃったことをはめこんで欲しい。
事務局	今委員長がおっしゃった「特色のある語学教育の強力な推進」という文言を、9ページの下から7行目に追加させていただきます。
野口委員長	それでは、基本目標4に対するご意見をいただきたい。13～18ページまである。中川委員はこのあたりを見られて、どう思われるか。

中川委員	<p>コミュニティバスについて、うちの母が利用させていただいている。行きは時間を調整できるのですごく便利だが、帰りが用事の終わる時間帯によっては乗れないこともある。これ以上本数を増やすのは無理なのか。JRから近鉄線へ子どもを連れて乗り換える時に利用させてもらって、すごく便利だが、できるならもう少し本数を増やして欲しい。増えれば、乗る人ももっと増えると思う。実際にバスが走っているのを見ると、利用している人が少ないと正直思う。本数を増やすか、時刻表のところをもう少し上手くしていただきたい。</p>
野口委員長	<p>これは、行政の理事では、どなたか。</p>
近藤（総務理事）	<p>コミュニティバスについては、たくさんの方々に乗っていただけるように、特に朝の通勤時間帯にできるだけ合わせて本数を多くしている。全ての時間帯に本数を多くすると、相当経費がかかってくる。できるだけ、朝夕の通勤・通学の時間帯に多く乗っていただくことをメインに考えている。個人的な事情も色々あると思うが、バスの時間帯に合わせていただけると有難いと思っている。</p>
西本町長	<p>それだけなら、もう少し増やして欲しいという話になる。昨年の3月にダイヤとシステムの改正を全て行った。今までは、奈良交通のバスは奈良交通の料金、私どもは私どもの回数券か現金ということだったが、ICカードが全部使えて、奈良交通と私どもの回数券も両方使えるということで、非常に使い勝手の良いものにさせていただいた。昨年の同月比の2～2.5倍の利用者があった。相当使っていただいている。それが一点と、檜の木台と法隆寺を走っている奈良交通とバッティングダイヤをしないように、相当奈良交通と調整している。コミュニティバスが走ることによって、奈良交通の利用者が減っているのかチェックしたところ、減っていなかった。ということは、総体的に公共交通への依存度が高くなってきているということである。今のところは、何とか上手くいっているという思いである。なので、近藤理事が言ったように、ある程度バスのダイヤに合わせていたくなるような利用を考えていただければと思う。また、いずれダイヤを改正しなければいけない時期がくる。その時には、もう少し良い方法も考えていきたいとは思っている。当面は今の形になって、利用者が相当増えている。できるだけ車を使わずにバスを利用していただきたいと思う。</p>
野口委員長	<p>「コミュニティバスの利便性の向上」と書いてある。それから、利用者数がKPIになっている。それならもうひとつ「利用促進」とか「PRの強化」等を入れて、とにかく乗ってくださいという働きかけが大事だと思う。その</p>

西本町長	<p>辺りを入れてはどうか。</p> <p>近鉄とJRは、本当に不便である。</p> <p>奈良市内のJR奈良駅と近鉄奈良駅を本来は結ぶという構想が、昭和30年代ぐらいにあった。ところが、奈良県知事と奈良市長は非常に仲が悪かったため、結局実現しなかった。それがずっと響いてきている。今度は、リニアの駅をどうするのかによって、一定の解決ができるのではないかと思う。</p>
野口委員長	<p>他にあるか。伊藤委員、いかがか。</p>
伊藤委員	<p>11ページのことでもいいか。空き家対策について。うちの地区の自治会にも6軒ほどある。長期の空き家が4軒、それ以外にちょくちょく出入りしている家も何軒かある。長期の空き家については、町にいる弁護士にアドバイスをいただいて、その家に資料等を出しているが、一切応答がなく大変困っている。ここに「適正管理の推進」と書いてあるが、もっと強硬に町から空き家の方に指導していただくようお願いしたい。いかがか。</p>
野口委員長	<p>これはどなたの管轄になるのか。</p>
事務局	<p>空き家対策については、平成26年度から実施させていただいている。27年度適正管理に関して、住民の皆さんに固定資産税の納付書等でお知らせをしている。それは引き続き続けていく所存である。また、空き家対策については、迷惑空き家等の対策も大切だが、できるだけそういうふうにならないように適正管理をし、利活用の対策として住民自らそういうふうにならないように考えていただく方法を、できるだけ推進していきたい。27年度も相談窓口やセミナーを設けさせていただいた。28年度も引き続き、利活用できるような対策の推進もしていきたい。迷惑空き家については、書面でも通知をし、できる限り近所の方の迷惑にならないように指導は引き続き行っていく所存である。</p>
野口委員長	<p>他に3、4で何かあるか。総合戦略に書いてあるということ根拠にして、具体的に効果のある施策を取りましょうということが、行政にとって大事なことはないかと思う。そういう意味で、ここに出ていることが非常に重要だと思う。</p> <p>他にあるか。</p>
和田副委員長	<p>前回会議で私が申し上げた、各委員の意見をどういう形でこの戦略に生かしていくのかについて、取り入れていただける部分はこうして分かり易いように青字で入れていただいた。それと、県の総合戦略がこの間できたばかり</p>

ということで、時間があまりなかったこともあると思うが、追いついて入れていただいた。一方、K P I の目標値を具体的な施策の目標値にもあげてはどうかと申し上げたが、県の総合戦略もそういう形ではなく、今のこの形で目標値をあげているというところで、それは難しいということがよく分かった。全体としては意見も反映していただき、良い形でまとめていただいたと感謝している。

ただ、先ほどから委員の皆様から、施策についての具体的なお話がかなり出てきたと思う。今この話をひとつひとつ全て掘り下げていくと、目標策定だけで3年も4年もかかってしまう。ただ、委員の皆様の戦略にかける熱い思いをおっしゃっていただいたと思う。これで終わりということではないと思うので、より具体的にどういう形で施策を進めていくのか、今後ますますご尽力いただければと思う。

野口委員長

全くその通りだと思う。よろしくお願ひしたい。

それでは次に次第の(2)について、事務局から説明願ひたい。

(2) 安堵町人口ビジョン(将来人口)の設定(案)について

事務局

○資料6に基づき説明

野口委員長

結論として、県並みの減少率を目標にするということである。これについて、ご質問、ご意見はあるか。

出井委員

私のところは笠目地区だが、ご存知のように法隆寺から近い。斑鳩町の目安団地に、新しい住宅がどんどん建っている。すぐに売れてしまう状態で、子ども達もどんどん増えている。空き家対策の中で、息子世帯が大阪で家を買ったとよく聞く。年寄りだけの世帯で、子ども達は大阪に家を買っているところが非常に多いので、二世帯住宅に補助を出す等の施策を取って欲しい。

野口委員長

今報告があったのは、将来人口の設定についてである。それについては、これでよろしいか。

森田委員

議会の中でも、将来人口に非常に関心を持った議員がいる。将来人口を取る場合、色々な説がある。この町の基本方向について、よく会議の中でまとめていただいたと私は評価している。この総合戦略の委員は5か年でお願ひしているので、十二分にこの内容で調和の取れた施策が実施できるのではないかと、私なりに議会には報告したいと思っている。色々意見申し述べたが、この戦略の中で将来人口はこうだということで、私なりに

	<p>議会に持ち帰り回答しようと思っている。</p>
野口委員長	<p>それでは、将来人口については認めていただいたということにしたいと思う。先ほど出井委員がおっしゃった、二世帯住宅については国の施策でもあるが、担当課からは何かあるか。</p>
事務局	<p>空き家対策については、まだまだガイドライン的なところが出ていない。活性化、利活用については、引き続き対策も立てていきたいと思う。具体的などころは、これから総合戦略を立てた次の段階で施策を考えていきたい。</p>
野口委員長	<p>空き家対策についてはそういうことだが、出井委員は二世帯住宅についておっしゃった。</p>
事務局	<p>今のところは、改修工事の助成まではいっていないが、和田副委員長からも安堵町の特色が計画にも含まれたらいいとおっしゃっていただいた。安堵町の特色としては、まずは家賃補助制度がある。安堵町内のマンションに住んでいただければ、家賃補助を30か月する。安堵町で住宅を購入された方に対しては、固定資産税の減免をしている。土地の上の新築の軽減はあるが、固定資産税の土地のほうの軽減をしている。これが2つの大きな特色である。改修工事等は施策としてはまだしていないが、固定資産税の減免で対策を立てている状態である。</p>
野口委員長	<p>11、12ページに書いてある内容を、強力に進めていただきたいと思う。他にご意見があれば、うかがいたい。</p> <p>それでは、これをもって総合戦略と人口ビジョンについては終わりたいと思う。</p> <p>その他について、事務局からお願いしたい。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>計3回にわたり、委員会で大変貴重なご意見を賜り、ありがとうございます。後日、委員長より答申をいただく予定としたい。</p> <p>これで安堵町人口ビジョン、安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定とさせていただきます。安堵町として総合戦略の計画に基づいて地方創生に取り組み、基本目標を達成するために施策を推進していく上では、産学官金労のご協力が不可欠となるので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願いしたい。ありがとうございます。</p> <p>総合戦略の計画、人口ビジョンの完成版が出来上がれば、後日お届けしたいと思う。</p>

野口委員長	<p>以上をもって、本日の議事予定は全て終了した。</p> <p>これをもって第3回安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を閉会する。</p> <p>5. 閉会</p>
-------	--